



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と  
ひ  
ツムぐ学生

第57号

2017年8月26日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

## 夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.36

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、  
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

# SPさんの「司会進行」



8月25日、司会進行もSPさんでした。この日の担当は、至学館大の梅田順子SPさん。こんな経験はめったにあることではありません。少し緊張気味です。でも、現場に出ると、こんな経験ばかりなのですよ。実習以上の緊張感でしょう。

「暑い中、来てくれてありがとう」「蝉の音が元気に聞こえますね。どんなふうにならないうた？」子どもたちは一斉に、

鳴き声のまねをします。すごい声量です。やめ、といっても、蝉の鳴き真似はとまりません…。こんなことも、現場ではしょっちゅうです。これもSPだからこそできる経験。うまくいってもいなくても、学びは大きいです。こういう「場」を提供できることから、この東浦の事業、中村先生の「思い」のすばらしさを感じます。

「今日、何を話そう……」。8月26日は、水野冴梨さんと田中麻稀さんが司会をするようになっていました。26日の始まる直前まで、冴梨さんは話すことを考えていました。「事前にしっかり考える」、これもよい心がけです。話は適当にしてはいけません。長い話をだらだらする現場の先生は、間違いなく力量がありません。こういう「教育センス」もSPさんは、肌で感じて学んでくれています。



冴梨さん。はっきりした声とちょうど良い声の大きさ、堂々とした姿勢で、すばらしい話っぷりでした。どこでいつ、こんな力量を身につけたのか？1年前、3年生でWSPで片葩小に来た当初は、それほど堂々としていなかったなあ…。たった1年弱でこんなに人って成長できるのか…。SPさんの成長を目の当たりにできるのは、SPスタッフや町教育委員会のみなさんにとっても、「喜び」「楽しみ」になっています。